

国際医療福祉大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム（成田看護学部）
自己点検・評価結果

（2025年7月16日 教務統括委員会 報告）

（応用基礎レベルプログラム概要）

本学は、全学的に文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）」に関する授業科目を開講して、数理・データサイエンス・AI教育の充実を図っています。応用基礎レベルに関する授業科目では、統計学と情報工学を融合した実践的な教育を実施し、医療福祉分野を始めとした多様な分野で知識と技術を応用できる人材の養成を目的としています。当該目的を実現するため、学生と産業界からの意見などをもとに、本プログラムに社会的需要等を反映するべく、自己点検・評価を行っています。

※本学は、2024年度から応用基礎レベルの教育プログラムを開始し、2025年度に以下2学部で「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）」に申請しています。

- ・成田看護学部：国際医療福祉大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム（成田看護学部）
- ・赤坂心理・医療福祉マネジメント学部：国際医療福祉大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム（赤坂心理・医療福祉マネジメント学部）

（自己点検・評価内容）

【対象期間:2024年4月1日～2025年3月31日】

自己点検・評価項目		実施内容	評価
学内からの視点	プログラムの履修・修得状況	本学では、応用基礎レベルの認定を「医療データサイエンスⅠ(DS基礎)」及び「医療データサイエンスⅡ(AI基礎)」の単位取得をもって行う。（本資料では、当該2科目を「応用基礎2科目」とする。） 成田看護学部では、履修者数1名（履修率0.3%）であり、修了者数は0名であった。応用基礎2科目は、いずれも今年度から新規に開講する科目であり、現状1学年（新2年生）のみが履修可能であるため、履修率は低値にとどまっている。しかしながら、当該2科目は、2023年度入学生からの正規科目であることから、今後、学年進行によって履修できる学生の幅は広がるため、履修率は時間経過とともに向上するものと考えられる。 一方、修了率については、応用基礎に係る2つの授業が選択科目であることから、片方のみの履修でとどめている学生が見受けられた。そのため、今後、応用基礎2科目の単位取得をもって、プログラムの修了認定がされることを周知すると同時に、学修成果を証明する認定証の発行なども検討し、学生の学修モチベーションの向上に取り組む必要があると考える。 以上から、本項目に対する取組は改善が必要であると判断する。	C
	学修成果	成田看護学部においては、2024年度は「医療データサイエンスⅠ(DS基礎)」の履修者が1名、「医療データサイエンスⅡ(AI基礎)」の履修者が0名であった。医療データサイエンスⅠ(DS基礎)の履修者については優秀な成績を収めて単位を取得しているが、2024年度の履修は当該学生1名のみであることを鑑みて、現時点では学修成果に係る適切な評価点検はできないと判断する。	N
	学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	本学では、学期末に全ての授業科目で授業アンケートを実施し、学生に教育内容などを調査している。本アンケートでは「授業の総合的な満足度」および「シラバスに沿った授業展開であるか」を確認しており、成田看護学部及び赤坂心理・医療福祉マネジメント学部で開講した応用基礎2科目においては、いずれの科目も「そう思う」「ややそう思う」を合わせた割合が90%を超えていた。 加えて、学修成果の項目で述べたとおり、応用基礎2科目では履修者の8割以上が単位を取得していることから、学生は授業内容等を十分に理解し、数理・データサイエンス・AI教育を学び修めていると考える。	B

(自己点検・評価内容)

【対象期間:2024年4月1日～2025年3月31日】

自己点検・評価項目		実施内容	評価
学内からの視点 (続き)	学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	学期末にプログラム履修者に対して、他の学生に対するプログラムの推奨度を聞くため、5段階評価のアンケート調査を行っている。本アンケートにおける回答内容の構成比は、「とてもそう思う」が16%、「そう思う」が43%、「どちらでもない」が34%、「そう思わない」が4%、「まったくそう思わない」が2%であった。 以上のとおり、「推奨したい」とする回答が59%と6割弱を占めているものの、昨年度は「推奨したい」の回答割合が89%あり、昨年度比で30ポイント減少していることから改善が必要であると判断する。	C
	全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	履修率が1%に満たないため改善が必要であると判断する。応用基礎レベルに対応する授業科目は全て選択科目であるため、継続的に学生へ履修を呼びかけていくと共に、プログラムを修了することで身に付く能力等を発信し履修率の向上に取り組んでいく。	C
学外からの視点	教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	2024年度から本プログラムを開始したため、修了生が卒業する2027年度以降に、アンケートなどを通じて活躍状況・企業からの評価を調査する予定である。	N
	産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	公益財団法人とデータ提供に関する協定を結び、そのデータを関連科目の演習教材として利用している。これに加えて、毎年、自己点検・自己評価委員会において、学外委員に意見をいただき、数理・データサイエンス・AI教育プログラム検討WG（以下「学内WG」）にて共有している。 2024年度から数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアムに加入し、データサイエンス教育に関する情報および社会的ニーズの収集体制の強化を図っている。また、今年度は本学主催で医療福祉分野データサイエンス教育ワークショップを開催し、学生やグループ教職員にとどまらず、学外からも多数の参加があり、幅広く意見の収集を行うことができています。 以上のとおり、意見を収集する体制の強化および、その意見を授業科目の見直し等に活用する体制の整備が徐々に進んでいるため、今年度はある程度の成果があったと判断する。	B
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させる取組等		本学では、学期末に全ての授業科目で授業アンケートを実施し、学生に教育内容などを調査している。本アンケートでは「授業の総合的な満足度」を確認しており、成田看護学部及び赤坂心理・医療福祉マネジメント学部で開講した応用基礎2科目においては、いずれの科目も「そう思う」「ややそう思う」を合わせた割合が90%を超えていた。 以上のとおり、授業の満足度についてポジティブな回答が大部分を占めていることから、数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を、一定程度浸透させることができていると判断する。	B
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とする取組等		学内WGにおいて、学生に「分かりやすい」授業とするために、定期的に授業内容などの点検を行っている。2024年度は、応用基礎レベルに対応する授業科目の開始に伴い、授業担当教員間での意見交換、授業教材、シラバスやアンケート集計結果をもとに、キャンパスの垣根を越えて情報共有を行った。	B

(評価基準) A：十分な水準・成果がある、B：ある程度の水準・成果がある、C：改善が必要である、N：現時点では判断できない

作成：数理・データサイエンス・AI教育プログラム検討ワーキンググループ

応用基礎レベルプログラムの履修・修得状況

(2024年度時点)

学部・学科名称	収容定員	2024年度		履修者数 合計	履修率	修了者数 合計	修了率
		履修者数	修了者数				
保健医療学部	2,140	0	0	0	0%	0	0%
医療福祉学部	570	0	0	0	0%	0	0%
薬学部	1,080	0	0	0	0%	0	0%
赤坂心理・医療福祉マネジメント学部	480	12	5	12	3%	5	42%
医学部	840	0	0	0	0%	0	0%
成田看護学部	400	1	0	1	0%	0	0%
成田保健医療学部	1,160	3	0	3	0%	0	0%
成田薬学部	120	0	0	0	0%	0	0%
小田原保健医療学部	800	0	0	0	0%	0	0%
福岡保健医療学部	880	9	0	9	1%	0	0%
福岡薬学部	600	0	0	0	0%	0	0%
合 計	9,070	25	5	25	0.3%	5	20%

※履修者数は、当該年度に初めてプログラム構成科目を1科目以上履修した人数を記載

※修了者数は、当該年度に全てのプログラム構成科目の単位を取得した人数を記載

後輩等他の学生への推奨度の調査

(2024年度履修者対象)

